NO. 2013. 31 号
発行日：2013 年 10 月 23 日

検査のパレット

今回は、採血時に注意の必要なスピッツや検査項目についてお話します。

●採血時、スピッツの蓋の開封は厳禁です！！！

Ｔ３

…エンドトキシン定量やβ―D グルカン測定に使用します。
空気中の真菌・細菌混入によるコンタミネーション防止のため、
開封厳禁です。

Ｐ１、　Ｐ２

…ＨＢＶやＨＣＶの測定に使用します。
開封により空気中の環境物質が混入し、ＰＣＲ(ポリメラーゼ連鎖反応)の反応が阻害されます。
微量の混入でも、偽陽性になるため開封は厳禁です。
シリンジ採血時はコンタミネーション防止のため、可能な限り最初の分注をお願いします。

●採血時、採血後の取扱に注意が必要です！！！

ＢＮＰ　…溶血するとプロテアーゼなどのタンパク分解酵素により分解され、低値になります。
また、採血後に室温で 1 時間以上経過すると BNP が分解されて 20～30%程度低値になります。

アンモニア　…採血後、１時間以上放置すると 40～50%程度、検査値が上昇します。

ペプチドホルモン　ADH（バソプレシン）、ACTH（副腎皮質刺激ホルモン）、カルシトニン、インスリン、グルカゴン、オキシトシン、セクレチン、ガストリン、ANP（心房性ナトリウム利尿ペプチド）、VIP、GIP、アンギオテンシン、コルチゾール、アルドステロン、カテコールアミン　等
…血清のペプチターゼ、プロテアーゼなどのタンパク分解酵素の作用で分解されてしまうため室温での保存安定性が悪く、採血後 30 分以内の冷却が必要です。

タクロリムス…全血を溶血させて測定します。採血後、すぐに検査室にもってこれない場合は冷蔵保存が推奨されます。

ビタミン　…日光、酵素、熱により容易に酸化分解されて活性を失い、低値になります。

ＡＩＣＳ　…採血後、1 分以内に 20 分間の氷冷保存が必要です。採血時は、検査室にご連絡をお願いします。

これらの項目の採血があった場合は、採血後なるべく早く検査室へ持ってきていただきますよう、宜しくお願いいたします。ご質問があれば、検査室へご連絡ください。　文責：藤井亜依　　監修：石竹久仁